

Japan 2025

【後援】



【日本代表派遣パートナー】



Wiennomori Corporation



【協力】



国際経済オリンピック 2025年 アゼルバイジャン大会 参加報告書

【国際経済オリンピック日本組織委員会】



国際経済オリンピック(IEO)とは

▶ **国際経済オリンピック(International Economics Olympiad、IEO)は、
高校生の、金融と経済の知識や技能を競う国際大会です。**

国際科学オリンピックに属し、2018年より毎年開催されています。世界的に学校のカリキュラムに含まれていない事の多い、経済学と金融リテラシー教育の普及を目指しています。

各国・地域から1チーム(主催国は2チーム)が出場し、英語で出題される経済学、金融リテラシー、ビジネスケースの3つの科目で競われます。1チームは5名の代表選手と、2名のチームリーダー(引率者)で構成されます。

運営主体は「国際経済オリンピック協会」です。スイス民法典(CC)に基づき、スイスのベルンに本部を置いています。協会は政治的・宗教的に独立しており、中立です。

日本代表は認定NPO法人金融知力普及協会が選抜・派遣しており、日本の優秀な若者が経済に興味を持ち、世界中の若者たちと友好関係を築き、国際的なコミュニケーションを深める機会となっています。

IEOの使命

世界中の高校教育の現場での経済学と金融リテラシー教育を推進する。

IEOの目標

- 世界中の学校のシラバス(授業計画)と実践に関する情報交換の機会を作ること
- 経済、金融、ビジネスの分野で優れた才能を持つ若者を発掘、奨励し、表彰すること
- 国際大会の高水準を維持すること
- 金融経済に興味を持つ若者たちの友好関係、国際的なコミュニケーション、競争心を奨励すること
- 金融経済に興味を持つ有能な若者たちのリーダーシップを育成すること

▶ IEOの歴史

2018年 モスクワ (ロシア)

13か国64人が参加。ロシアHSE大学のホストで初開催。
優勝はラトビア、準優勝はロシア、銅賞はブラジルとカザフスタン。

2019年 サンクトペテルブルグ (ロシア)

24国131人が参加。金融リテラシーゲームを導入。
マッキンゼーがビジネスケースを作問。
優勝はブラジル、準優勝と銅賞を共に中国チームが獲得。

2020年 オンライン (カザフスタン)

29か国130人が参加。コロナ禍により、完全にオンラインで実施。
優勝はブラジル、準優勝はインドネシア、銅賞はロシア

2021年 オンライン (ラトビア)

44か国217人が参加。引き続きオンラインでの実施。
開会式にはラトビア大統領 Egils Levits 氏が参加した。
優勝はブラジル、準優勝はカナダ、銅賞はアメリカ

2022年 オンライン (中国)

40か国201人が参加。3度目のオンライン。
5か国がトルコに集まり参加した。
優勝はアメリカ、準優勝はブラジル、銅賞はカナダ

2023年 ボロス (ギリシャ)

47か国223人が参加。テッサリー大学がホストし、集合とオンラインの合同での形式となった。ギリシャに集まったのは14か国。**日本代表が初参加。**
優勝はブラジル、準優勝はインドネシア、銅賞はカナダ
日本代表は銅メダル1、総合31位。

2024年 香港

52か国237人が参加。
25か国が実際に香港を訪れた。**日本代表は銅メダル1、総合39位。**
優勝はシンガポール、準優勝は台湾、銅賞はロシア

IEO2025・アゼルバイジャン大会

▶ 参加国

昨年に引き続き、集合とオンラインのハイブリッド形式となりました。下記52か国が参加(英名順)



▶ 今回大会の国別成績

2025年大会の参加者258人のうち、金賞は24人、銀賞は43人、銅賞は66人でした。

チーム	総合順位	金メダル	銀メダル	銅メダル
シンガポール	金賞	4	1	
カナダ	銀賞	4		1
中国	銅賞	4		1
ロシア	銅賞	3	2	
インドネシア	5位	1	4	
台湾	6位	2	3	
フィリピン	7位		4	
メキシコ	8位	2	2	
マレーシア	9位		3	2
タイ	10位	1	3	1

※ホスト国は2チームの出場が認められる

▶ 日本代表の成績

大会	総合順位	金メダル	銀メダル	銅メダル
2023年	31位			1
2024年	39位			1
2025年	14位		2	3

鈴木 達郎 金融知力普及協会 常務理事・事務局長 国際経済オリンピック 国際理事



今回のIEOアゼルバイジャン大会は、私たちにとって大変実り多い大会となりました。日本代表の高校生たちに対する育成方針が功を奏し、好成績を収められたこと、そして2027年日本大会のホストに向けて多くの学びを得られたことは、大きな成果です。

今年は特に、従来弱点とされてきたビジネスケーススタディでの得点向上を目指し、さまざまな施策を講じました。日本の教育には金融経済に関する正式な科目がなく、プレゼンテーションの機会も限られています。それを英語で行う必要があるため、日本チームにとっては大きなハードルでした。そこで、選考段階から複数回のビジネスケース演習を実施し、議論への参加姿勢、貢献の仕方、リーダーシップなども評価して代表を決定しました。また、IEO香港大会でビジネスケースの審判を務めた経験を持つコンサルタント、辻隆征さんにクリティカル・シンキング講座と

直前の作戦会議をお願いしました。その結果、ビジネスケースでは52か国中10位にランクインし、前回の41位から大きな飛躍を遂げました。

東京大学・青木浩介教授にも今年もご講義をいただき、経済学分野での全体的な得点向上が見られました。こうした取り組みを通じ、着実に成果が現れていることを実感しています。今後は金融リテラシー分野における教育の必要性を一層強く感じています。

アゼルバイジャン大会はホスピタリティにあふれていた一方、準備不足が見受けられる場面もありました。例えば、冷房のない場所で長時間待たされることがあったり、試験用PCがWi-Fiに接続できず日程変更を余儀なくされたりするなどです。こうした経験から、2027年大会に向けては周到的な準備と事前シミュレーションの重要性を再認識しました。アゼルバイジャンは昨年までオンライン参加だったため、運営関係者の多くが過去の大会を現地で経験していなかったようです。状況が許せば、来年の中国大会には視察団を派遣することも検討すべきでしょう。実際、中国は今年、2名の引率者に加えて3名のオブザーバーを派遣していました。

2027年大会では、参加者に最高の環境を提供できるよう、以下のような方針で準備を進めたいと考えています。

①試験に関しては、ネットワークや電気設備の専門家の協力を得て、絶対に齟齬のない運営体制を構築する。 ②引率者のための待機場所をきちんと整備し、快適に過ごせる環境を用意する。 ③スケジュールに余白を持たせ、日本滞在を自由に楽しみたいチームへの配慮を行う。 ④準備は大変になるが、低コストで食事を賄いたいチームと、日本での食文化を自由に楽しみたいチームの両方に対応できる体制を整える。

今回の日本代表派遣は、ウィーンの森様、笹川平和財団様、SMBC日興証券様、農林中金バリューインベストメンツ様、みずほ証券様、シンプレクス・アセット・マネジメント様のご支援により実現しました。また、代表選手の育成にご尽力いただいた青木様、辻様のおかげで大きな躍進を遂げられました。さらに、代表選手の選考や強化、パートナー探しにおいて、国際経済オリンピック組織委員会の武神様、馬淵様、水谷様、そして金融知力普及協会理事の皆様にも多くのご指導を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

今回の成績は銀メダル2個、銅メダル3個、国別順位52か国中14位でした。全員がメダルを獲得するという大きな目標を、学生たちの努力によって早くも達成できました。英語を母語とせず、経済学の授業もない国としては、大健闘といえるでしょう。次回以降は、金メダルの獲得と国別順位トップ10入りを目指してまいります。また、大会期間中、代表の生徒たちは多くの海外の高校生と交流を深め、最終日には現地の大学生ボランティアに個人的に案内してもらい、観光を楽しむ姿もありました。こうした国際交流の経験は、成績と同じくらい価値のある財産となったはずです。

最後に、アゼルバイジャン大会に挑戦した5名の若者たちに心からの敬意と感謝を贈ります。この経験が、皆さんの人間的な成長に確かな一歩をもたらしていることを願っています。



壮行会



IEO2025への道

国内代表選考大会

日本においては、**エコノミクス甲子園**全国高校生金融経済クイズ選手権、および**リアビズ**高校生模擬起業グランプリが、国際経済オリンピックの代表を選ぶための選考大会となっています。また、上記大会に出場できなかった高校生向けの特別選考が実施されました。

代表最終選考合宿(Economics Asia Convention)

国内選考大会を経て選ばれた10名が、最終選考合宿(以下、EAC)に参加しました。マカオ、香港、ネパールなど、アジア各国の高校生と合同で、IEOとほぼ同じ内容の一週間の合宿を実施しました。

事前の学習

東京大学の青木教授のご指導の下、週一回のペースで計8回、ZOOMによる経済学の授業が行われました。大変得難い貴重な機会でした。また、ビジネスケースの対策として、プレゼンテーションの講座を、コンサルタントである辻様に頂きました。

国際経済オリンピック(IEO)本大会

激励を頂いた皆様(順不同)

片山 大	さつき様	元内閣府特命担当大臣 自由民主党副幹事長 参議院議員
岡田 大	大様	金融庁 総合政策局政策立案総括官
大友 佳子	様	金融経済教育推進機構(J-FLEC) 理事
尾塩 俊彦	様	S M B C 日興証券株式会社 執行役員 CSuO
長原 正樹	様	農林中金バリューインベストメンツ株式会社 執行役員 マーケティング＆ブランドデザイン部 部長
木元 大祐	様	みずほ証券株式会社 執行役員 CSO 兼 CDO 兼 CSuO 兼 投資業務部担当
茶野 順子	様	公益財団法人笹川平和財団 常務理事
成井 未生	様	公益財団法人笹川平和財団 スカラシップ事業部 特任チーフコーディネータ
青木 浩介	様	東京大学 大学院経済学研究科 教授
吉田 憲三	様	元ニッキン 元取締役 取材局副局長
福地 慶太	様	公益社団法人 日本証券アナリスト協会 事務局長
山腰 柊真	様	東京大学 大学院生
ルーミス アイザック	様	東京大学 大学生
岡田 拓弥	様	東京大学 大学生

金子 昌資	様	認定NPO法人金融知力普及協会 理事長
野中 ともよ	様	認定NPO法人金融知力普及協会 副理事長
渡邊 英二	様	認定NPO法人金融知力普及協会 副理事長
柏谷 脩太	様	慶応大学 元IEO日本代表 ボランティアスタッフ
徳田 有花	様	東京大学 元IEO日本代表 ボランティアスタッフ
大久保 優樹	様	早稲田大学 元IEO日本代表 ボランティアスタッフ

行程



壮行会・渡航

アゼルバイジャンの首都バクーへの直行便はなく、深夜出発のドーハ経由の便となりました。

そのため、壮行会后、その足で羽田空港に向かい、20時間の移動を行うハードスケジュールとなりました。



開会式

開会式では、現地民族舞踏のショーなど、立派なシアターでの見ごたえあるものでした。。

32か国の現地参加国の代表が集まりこの後始まる試験に向け決意を新たにしました。



経済学試験

選択問題と、小論文の4時間にわたる試験です。全体評価の半分を占める重要な科目です。



金融リテラシー試験

金融リテラシー試験は、ビジネス経済、生活経済・ライフデザインの分野での選択問題が出題されます。



バクー観光

現地組織委員会はかなり観光に力を入れており、毎日の様に観光の予定が入っていました。



ビジネスケース 準備

団体戦であるビジネスケース。お題の発表から24時間でプレゼンを完成させ翌日英語でに発表を行います。

今回は、カスピ海を横断しカザフスタンとアゼルバイジャンを繋ぐ橋の建設プランについて、是非を問われるものでした。



行程



ビジネスケース発表

ほぼ徹夜で作成したプレゼンテーションを英語で発表します。

分析力、解決策のみならず、プレゼン力や質疑応答など全ての点が評価対象になります。

日本を含め、各国ビジネススーツで臨みました。



閉会式

閉会式では、個人上位入賞者の発表やビジネスケースの上位チームの発表がありました。

各国メンバーの名前が出たときは大きな歓声が上がります。日本チームの名前はなかなか呼ばれなかったのですが、結局全員がメダルを受賞し素晴らしい結果となりました。



現地スタッフとの交流

大会終了後、仲良くなった現地のボランティア大学生が観光ガイドを買って出ってくれました。



スナップ集



代表感想



岡本理那

**横浜サイエンスフロンティア高校 3年
銅メダル受賞**

今回このIEOで銅メダルを獲得できて、本当に嬉しく思います。応援してくれた皆様、経済について教えてくれた皆様ありがとうございました。
この大会に来る前は、大会は今まで積み上げてきたものをただ単に出す場だと思っていたのですが、実際にIEOに参加し、経済を追求する高校生と触れ合ったり、その土地の文化を知ることを通して成長できる場だということがわかりました。
今後は大会を支える側となって、後輩の皆さんを応援したいと思います。ありがとうございました。



富田哲志

**芝高校 3年
銅メダル受賞**

今回IEOで銅メダルをいただきました。
1週間ほどバクーにいましたが、体感では3ヶ月くらいいるかと錯覚するほどとても濃い旅でした。
本当にいろんなことを経験して、自分自身も大きく成長したと思います。日本以外の色々な文化やすごい人たちに触れて成長したと思うので、帰国したら、自分の成長を一つずつ確かめていくところから始めて、また次の成長に活かしたいと思います。
ありがとうございました。



小川琳太郎

**横浜サイエンスフロンティア高校 3年
銀メダル受賞**

今回、アゼルバイジャン大会で銀メダルを獲得することができたのは、ひとえに勉強を教えて下さった方々のおかげだったと感じています。
僕がアゼルバイジャン大会で優秀な他国のの人たちと関わって感じたのは、コミュニケーションなどの面が今の自分には欠けていて伸びしろだと感じたので、ここから成長していきたいということです。
来年以降の大会に出るか、スタッフとしてサポートに回るのか分らないですが、そこで日本チームのために貢献できるように頑張りたいと思います。
ありがとうございました。



早川惺

**筑波大学附属駒場高校 3年
銅メダル受賞**

今回バクーという異国の地で9日間戦い抜いて、銅メダルを獲得することができました。その過程で海外の色々な人と触れ合って、日本では気づけないことにもたくさん気づけました。
同時に、自分がまだ学べていないこと、これから学ばなければいけないことも非常に多いと感じました。今回バクーで経験したことを踏まえて、来年をさらに飛躍の年にしたいと思います。
できるならば、来年金メダルを取れるように全力を尽くしたいと思いますので、後輩の皆さんもぜひIEOに来ていただければと思います。ありがとうございました。

代表感想



増島楷

**The Loomis Chaffee School 2年
銀メダル受賞**

今回、バクーという東京から20時間離れた地に来て、銀メダルを取ることができて本当に嬉しいです。
二か月くらいずっと経済の勉強だけしていたので、報われて良かったなと思っています。
来年は必ず金メダルを取りたいと思っているので、宜しくお願いします。



IEOに至る大会

▶ EAC2025

日本にとっては国際経済オリンピック本選への最終選考となる、Economics Asia Convention (EAC)2025は、2025年3月23日～29日の7日間、東京で開催されました。参加は、日本(10名)、中国(9名)、台湾(7名)、ネパール(3名)、香港(3名)、マカオ(2名)の計6か国34名でした。

日本から参加した10名は、前月に行われた第19回エコノミクス甲子園全国大会、その全国大会と同時に開催されたIEO特別選考、2024年度に開催された第5回リアビズ 高校生模擬起業グランプリのそれぞれで優秀な成績を収めた高校生たちです。このEACでの成績をもとに、代表の5名が選出されました。

EACは、IEO本番さながらのスケジュールで経済学の試験とビジネスケースのプレゼンテーションを行いました。ビジネスケースのプレゼンテーションは、本番のIEOでは各国ごとのチーム戦で行われますが、EACでは、国籍を混合したチームで行い、英語でのコミュニケーションや、文化の違うチームメイトと議論しながらプレゼンテーションに向けた準備をしていました。

また、筆記試験の前には東京大学の青木教授による特別講義もいただきました。
主催は、認定NPO法人金融知力普及協会と香港のKNIGHTS財団が務め、公益財団法人笹川平和財団のサポートをいただきました。

▶ AAE02025

オーストラレーシア経済オリンピック(AAEO)は創立3年目を迎えた、国際的な高校生の経済学のコンペティションです。今回は、オーストラリア、ニュージーランド、ルーマニア、マレーシア、シンガポール、中国、モンゴル、香港、マカオ、ネパール、日本の11か国から55名の高校生が参加しました。

協議内容は、経済学と計量経済学に関する筆記試験で競う個人部門と、経済政策の立案を行うプレゼンテーション作成で競うチーム部門となり、共に上位3位の発表のみで個々の採点や問題、模範解答などは開示されません。

日本チームは今回初参加。EACに参加した生徒から希望者を募り、増島君と早川君も参加しました。結果プレゼン部門で3位に入賞し、IEOでの好成績に繋がりました。

国際経済オリンピックの主催者

謝辞

▶ IEOの主要人物



Eric Maskin:

- ・国際経済オリンピック評議員会 議長
- ・ハーバード大学教授
- ・2007年ノーベル経済学賞受賞



Danil Fedorovykh:

- ・国際経済オリンピック理事長



Alex Zhitkovskiy:

- ・国際経済オリンピック理事会事務局長



Humberto Llavador:

- ・ポンペウ ファブラ大学教授



Gregory Mankiw:

- ・ハーバード大学教授

▶ IEOの組織体制

国際委員会

- 戦略立案、重要な意思決定に責任を持つ

理事会

- IEOの方針と運営を管理する

評議員会

- IEOに対しての長期的なアドバイスを行う

中央事務局

- 長期的なパートナーシップ、ウェブサイト、資金調達など、IEOのすべての継続的な運営を担当する

運営委員会

- 各国際大会の運営を行う開催地が主体。毎年変更になる

問題委員会

- IEO課題の作成に携わる専門家や、採点の透明性・客観性に責任を持つ教員で構成される



▶ IEOチームの主なタスク



経済学、金融リテラシー、ビジネスケースの3つの出題分野に対して、下記の方法で、高品質な問題の作成を目指す

- 方法論、問題集、解法のデータベースの作成
- 金融リテラシー試験出題方法の模索
- ビジネスケースの作成を行う大規模コンサルティングファームの誘致



将来の国際大会開催国の誘致、工程管理、品質管理への支援



各国の教師による経済学教育の経験交流会の開催



講演会、著名な講師を招いた会合、参加者の交流の場となるエンターテインメントイベントなどを開催



文章管理など

法人所在地

IEO中央事務局は、スイスのベルン大学に所在しています。

“International Economics Olympiad (IEO)”
Association c/o Science Olympiad
University of Bern, Hochschulstrasse 6, 3012 Bern,
Switzerland

▶ 後援



▶ 協力



▶ 日本代表 派遣パートナー



ゴールドパートナー



Wiennomori Corporation



シルバーパートナー



SMBC日興証券

MIZUHO みずほ証券



Norinchukin Value Investments Co., Ltd.



ブロンズパートナー

Simplex

Asset Management